

「主は喜びを私の心に下さいます」
詩篇4篇(宣教要旨)
説教者 A.Na

3篇に続き、まだ先の見えない、敵から逃れている途中に「主の平和、平安を求める祈り」が続く…

みなさんは、色々なことを考えてしまって、なかなか眠れない…または、心が騒いだり乱れたり、不安定な状態になってしまう夜を過ごした経験がありませんか？

《1節…義なる神へ呼びかける》

「神の義」…完全な正しさ。神の戒めと、ご契約、そして、神のなさることのすべてが、絶対的にまた倫理的に正しいことを示す。神のみわざ、神のなさることは完全であり、神は正しくさばかれる(申32:4, 詩98:9)。

「追いつめられる」という、どうしようもできない状況、困難、苦しみの時に、神は、そこから解放して下さる。それは完了し、もうすでに与えられたことである。

《2～5節…主の特別な扱いを受ける確信を持ち、敵対者にもあわれみをもって語る》

不信仰な者たち(ダビデに敵対する者たち)への警告のことばが続く。

「私の栄光を辱める」とは、完全な義であられる神であり私の栄光であられる主(詩62:7)を辱めること。また、空しいものも偽りも、偶像に過ぎず、本来求めるべきではない。

「聖徒」…主に忠実であり、誠実に主を信じ主に従う者。

私を追いつめる敵、そのような存在に対し、憤りや怒りから罵ることばを浴びせるのではなく、「私が呼ぶとき 主は聞いてくださる」という確信に立って、主の聖徒に与えられる特別な扱いを知りなさい、と語る。

4、5節で、ダビデは主に与えられる平安の中、自分自身に語る。

「震えわななけ」…恐れるべき唯一のお方、全知全能の主を恐れ、震えわななけ(詩99:1)。

「罪を犯すな」…自分に敵対する者がいて、苦しめられても、義であり正しくさばかれる神に信頼し、復讐など自ら罪を犯してはならない(箴24:29, エペ4:26)。

「心の中で語り…」…主の語りかけに耳を傾け、眠りにつく前、主の御前に静まり祈りの時をもつようと願う。

「義のいけにえを献げ…」…義なる神の御前にふさわしく、正しく歩む生き方を求める。それは、主に拠り頼み、義であり正しくさばかれる主に信頼して歩む信仰者としての歩み。

《6～8節…主に平安を求める祈り》

深い闇の中にいるような私たちの上に、主の光輝く御顔、そのすべてを照らす光を照らしてください、と祈ろう。

主の御顔が照り輝くことにより、滅びるしかなかった罪だらけの私たちは、罪からの完全な救いを受ける(詩80:3, 7, 19)。

多くの者たちにとっては、穀物や新しいぶどう酒など、生きる上で必要と思えるものたちが豊かにあることの方が喜びであり安心することだと思えるが…主が御顔の光を照らして下さること、それがダビデにとっては大いなる喜びであった。

主を信じない者や自分の力に信頼する者には滅びがあるが、主に信頼し、主の御声に聞き従う者は、わざわざから守られ、恐れることなく安全に、安らかでいられる(箴1:33)。

《夜、眠る前の主への祈り…》

私たちは現在、新型コロナ・ウイルスの感染の拡大、自然災害、社会的にも経済的にも、あらゆる面で困難な状況を思うとき、心は騒ぎ、不安でいっぱいになってしまう…

しかし、主は、必ず私たちの祈りを聞いてくださる。どうか今夜、眠る前にこの詩篇を思い巡らし、祈りましょう。

主に信頼し、主を求め、主に従う歩みの中、不安に襲われる夜も、私の義なる神は、喜びを私の心に下さいます。

